

# 令和8年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 夢や目標を探究し、確かな学力と豊かな心でたくましく生き抜く生徒の育成

目指す子どもの姿 ①未来予想図を描き、実現に挑む生徒  
②意欲を持ち、創り出し、やり抜く生徒  
③自他を大切にし、前向きで心豊かな生徒

変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力  
e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市立上野台中学校  
学校長 出藏 裕昭  
研究主体【研究推進委員会】

前年度			継続性	4月			2~3月
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)	評価		学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)
1. 授業改善 (a,b,c)	○授業見学週間を学期に1回行うことができた。 ○授業見学の振り返りシートを踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けての研修を行うことができた。 ◆年度当初にテーマを設定し、テーマに沿った授業見学週間としていきたい。	B	→	1. 授業改善(a,b,c)	・生徒の達成感や学習意欲を醸成する「分かる授業」づくりに努める。 教員1人あたり3回以上の公開授業実施 ・テーマを設定した教職員同士の授業公開週間を実施する テーマの設定	・授業公開週間を学期に1回設定し実施する。 ・公開された授業を教職員が参観する雰囲気醸成する。 ・テーマを意識した公開授業を実施する。 ・テーマに沿った教職員同士の意見交流を実施する。	
2. 学習習慣の確立 (c,e,f)	○家庭学習についての意見交流や「家庭学習の手引き」を作成するなど、家庭学習の見直しを促すことができた。 ◆2学期末に実施した学校評価「家庭で自主的に学習に取り組んでいる」の項目で、生徒と保護者の結果に開きがある。肯定的な意見は、生徒…90%超、保護者…63%(昨年より13%減) ◆来年度も生徒が中心となって「家庭学習の手引き」を作成し、学習に対する意識を高める取り組みが必要である。	C	→	2. 学習習慣の確立 (a,c,d,e,f)	・朝SHR前の11分間の朝学習を年間を通して週4日実施する。 実施率90%以上 ・終SHR後の25分間の自主学習を年間を通して月1日実施する。 実施率90%以上 ・生徒による「家庭学習の手引き」の改訂、異学年交流での意見交流を実施し、生徒の学習に自主的に取り組む意欲を高める。 「家庭学習の手引き」の改訂	・11分間の朝学習を国→数→社→理→英の順で実施する。 ・25分の自主学習にて生徒自らが課題を設定して取り組む力を育成し実施する。 ・異学年交流にて自身の家庭学習について意見を交流する際に、3年生から1・2年生に家庭学習で大切なことを伝授する取組みから、生徒が学習に自主的に取り組む意欲を高めさせる。 ・生徒会が中心となり「家庭学習の手引き」を作成する。 ・保護者向け「家庭学習の手引き」を作成し、理解を促す。	
3. 朝学習の充実 (a,d)	○計画通り週4日間、10分間の朝学習に取り組む時間を確保した。一斉課題配信の教科もあれば、個々の自由選択の教科もあった。 ◆「一斉課題配信」と「個々の自由選択」のそれぞれのメリットについて研修する必要がある。 ◆朝学習の進捗状況を確認できていない教科もあったので、生徒のつまずきを把握し授業改善に活かす取り組みを推進していきたい。 ◆より充実させるため、実施時期を早めるなど、取り組み期間を広げる。	C	→	3. 指導と評価の一体化 (e,f)	・生徒にどういった力が身に付いたかとの学習成果を的確に捉える。 定期的な小テスト、単元テストの実施 ・生徒自身が自らの学習を振り返り、次の学習に向かうような授業改善を行うため、教職員がPDCAサイクルを意識して教科指導に当たる。 教職員アンケートにおける「実践的指導力の向上」肯定的意見80%以上	・定期考査に加え、小テストや単元テスト等を定期的に行い、粘り強く学習に取り組めるようにする。 ・自らの理解の状況を振り返ることができるような発問を行う。 ・自らの考えを記述したり話し合ったりする場面を設ける。 ・教職員が朝学習の取組み状況を確認する。(生徒にさせっぱなしにしない) ・各学期の定期考査は1回なので、評価に当たっては定期考査だけでなく、小テストや単元テストを定期的に行い、これらを通して生徒のつまずきを把握し、授業改善に活かす。	
4. 指導と評価の一体化 (e,f)	○全教科で小テストや単元テスト・実技テストを実施できていた。 ○PDCAサイクルを意識した教科指導ができたとする回答が比較的多かった。 ◆生徒の理解定着や「わかる楽しさ」につながる授業づくりを推進していく必要がある。	B	→	4. 教職員研修の充実 (c,d,f,g)	・計画的かつ様々な分野における教職員研修を実施する。 教職員研修年間8回以上	・校内授業公開における意見交流の実施 ・道徳人権研修の実施 ・ICT活用研修の実施 ・中学校区内幼小中合同研修の実施 ・教科指導(指導と評価の一体化について交流)に関する研修を実施	
5. 研修の強化 (c,d,f,g)	○職員研修は積極的に行うことができた。 ・校区内幼小中合同研修会(カウンセリングマインドについて 講師:本校SC) ・道徳授業実践(読み物教材の指導強化 講師:兵教大下野先生) ・特別支援教育(困っている生徒がSOSを出しやすい環境づくり 講師:上野ヶ原特別支援学校 谷内先生) ・リアテンドント研修(採点効率向上 講師:情報教育担当) ・学習評価の在り方について(主態評価の捉え方 講師:研推担当) ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて(Keynote共同編集の実践事例を踏まえた研修 講師:研推担当) ・指導と評価の一体化(PDCA授業改善、教育課程論点整理の内容について 講師:研推担当)	A	→				

○「教員点検」は教員対象に実施した自己点検調査結果(1~5の5段階評価)の平均値  
 ○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価  
 A…十分に達成 B…おおよそ達成  
 C…達成が不十分 D…ほとんど達成できず